



4年生は、体験活動や外部講師との連携を主軸とした学びを進めてきました。

◎社会科「水はどこから」

子供たちは、社会科の学習の中で、知立市の水道水がどこからくるのか、使った後はどこへ行くのか、ということに疑問をもちました。その疑問を解決するために、知立市役所の水道課、下水道課の方をお呼びして、出前授業をしていただきました。知立市内に安全でおいしい水を供給するために、浄水場の方が24時間体制働いてくださっていることや市の地下水だけでなく愛知県から水を買っていること、生活排水は境川浄化センターを介して、雨水はそのまま川へ流されていることなどを学びました。イラストやクイズを交えて分かりやすく説明していただくことができ、子供たちは、メモを取りながら熱心に聞いていました。



◎社会科「ごみのしゅ理と利用」

「ごみのしゅ理と利用」の単元では、子供たちは、自分の家から出るごみのゆくえについて疑問をもちました。その疑問を解決するために、知立市のごみが集まるクリーンセンターへ社会見学に行きました。子供たちは、クリーンセンターへ運び込まれるごみの量や一日に燃やせるごみの量、においや害のある煙を取り除いてから空に排出している煙突の秘密、ごみを燃やした時に出る熱エネルギーの再利用などについて、担当者から話を聞きました。普段見ることのできないごみピットのクレーン作業やコンピューター制御室で働く様子を見せていただき、子供たちは目を輝かせながらその様子に見入っていました。



◎総合的な学習「地球の未来を考えよう」

子供たちは、総合的な学習のテーマ「地球の未来を考えよう」を年間のテーマとして学習を進め、主に環境問題について、追究の時間を重ねてきました。その一環として、知立市の花「かきつばた」の普及啓発をされている愛知豊明花き流通協同組合の方を講師に招き、花育の授業を行っていただきました。

講師の方からは、かきつばたの生態、かきつばたの歴史や八橋との関わり、かきつばたの繊細な育て方などを教えていただきました。講義の後には、子供たちが実際にかきつばたの种植えを体験しました。知立市の花であるかきつばたを大切に育てる心が育つと共に、花育を通して環境問題をより身近に感じることができる貴重な会となりました。

